

会 議 録				
平成27年度第9回 社会教育委員の会議	日 時	平成28年2月19日（水） 午前9時30分～11時20分	場 所	小金井市役所 第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	原嶋議長、柴田副議長		
	事務局	古家、北村、石田、城、長坂、小山田、佐野、原田 各委員 西田生涯学習部長、石原生涯学習課長、上石図書館長、前島公民館長 小堀生涯学習係長、伊東生涯学習係主事		
	その他	株式会社ぎょうせい		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 協議事項				
(1) 第8回社会教育委員の会議会議録の承認について				
(2) 第3次小金井市生涯学習推進計画について				
ア パブリックコメントの回答について				
イ 最終確認について				
(3) 一般社団法人全国社会教育委員連合（「社協連」）の組織存続のための緊急提案 について				
(4) その他				
2 報告事項				
(1) 第3次小金井市子ども読書活動推進計画（案）に対する意見及び検討結果につ いて				
(2) その他				
(原嶋議長)				
おはようございます。今日もよろしく申し上げます。				

第9回の社会教育委員の会議を始めさせていただきます。

では、配付資料の確認をお願いいたします。

(事務局)

では、配付資料の確認を事務局からさせていただきます。

まず、1枚目が本日の次第になります。

次に、めくっていただきますと「第3次小金井市生涯学習推進計画（案）に対する意見及び検討結果について」というステープラーどめのものがついております。

その次が「第3次小金井市生涯学習推進計画（案）」というステープラーどめの分厚いものがあります。

その次に「生涯学習計画の概要版（案）」というA3の二つ折りになっているものがあります。

その次に『社教連』の組織存続のための緊急提案」というホチキスどめのものが3枚になります。

次に「第3次小金井市子ども読書活動推進計画（案）に対する意見及び検討結果について」というものが三面刷りで出ています。

その後ウオーキングフェスタ東京、カラー刷りのツデーマーチのチラシがあります。

あと、そのほかに委員さんのみになりますが、社教連会報、社教情報、A4の白黒のものになりまして、全国学びとまちづくりフォーラム in 佐野という佐野市の教育委員会から送付されたお知らせがありますので、参考にお配りさせていただきました。

配付資料は以上になります。

過不足がございましたら事務局のほうまでお願いします。

以上です。

(原嶋議長)

よろしいですか。

1 協議事項

(1) 第8回社会教育委員の会議会議録の承認について

(原嶋議長)

なければ協議事項に入ります。

第8回社会教育委員の会議会議録の承認についてということですがけれども、よろしいですか。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

では、承認をいただきました。

(2) 第3次小金井市生涯学習推進計画について

ア パブリックコメントの回答について

(原嶋議長)

小金井市生涯学習推進計画についてということです。パブリックコメントの回答並びに最終確認について、まず、パブリックコメントの回答についてということで、お手元の資料、既に皆様方にはメール等で配信されていると思います。委員の方々からは課のほうには入ってきていませんか。

御意見を出されたのは、お二人、1団体、11件のようです。

これはこの前、部長さんがおっしゃったように、順次、我々のほうで確認しながら進めていくというような作業ということになると思います。

1と2は大分同じようなコメントがありましたけれども、順次やっていきましょう。

1について何か。貴重な御意見とさせていただきますということですね。もうお読みになられたということで進めてはいるのですけれども、早過ぎればストップを教えてください。

よろしいですか。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

2に行きます。同じ文章が挿入されておりますけれども、貴重な御意見とさせていただきます。

では、次に進めます。

3、重点プロジェクトに生涯学習支援機能の充実ということで、右のほうには、この前やりました三者の提言を踏まえていますので、貴重な御意見とさせていただきますということですね。

では、次に行きます。

重点プロジェクトに、これは先ほどの図書館の充実等々ではなくなってきた展開かな。

4番、文章の補足が入ってくると思います。今後の方向性の新たな施設の建設は、市の財政状況等を踏まえると難しい状況です。これを削除するということですね。ふさわしくない。未来を創造する推進計画にふさわしくないということですね。そういう御指摘にのっとなって、生涯学習支援機能の充実に向けてという表現に修正いたします。

よろしいですか。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

その次に、5番、スポーツ、レクリエーション、図書館、公民館の充実という御指摘がありました。この文章をさっと読みますと、NPO委託の評価について言及しているわけではないので、貴重な御意見とさせていただきますというような文言です。

課長さんのほうで、もし何かつけ加えることがあればその中でおっしゃっていただければと思います。よろしくお願いたします。

25ページには、図書館の充実ということをアピールされている。ここで御意見を、この中に吸い上げている感じになると思います。一番右、小金井市には児童館、児童公園、子ども広場があります。また、これらとともに図書館や公民館なども子どもや子育て家庭の居場所として活用されています。今後、子ども同士、大人との交流などが安全にできる環境の充実と仕組みづくりが必要だと修正する。環境の充実ということと、上が追記されました。

(石原生涯学習課長)

議長、こちらのものと合わせて見ていただくと全体的なものも確認できると思います。

(原嶋議長)

わかりました。

次に行きます。

重点プロジェクトですね。一番右です。いただいた御意見を参考に今後の方向性の最後に続けてというように文章をつけ加えるということです。特にコメントされた方の文章をいただいているようです。また、高齢者の学びの場としても図書館、公民館などの居場所の充実を図ります。全体を見渡してこのような文章作成になっているのではないかと思います。

その次に、8番、御指摘は、これらのプロジェクトの説明の最後に続けてというものがああります。これらのことから、文化の拠点として、図書館、本館、分室の一層の充実と機能の拡大が求められますことを追記する。いただいた御意見を参考に今後の方向性を市民同士の学びの循環がされることが重要であるため、図書館、公民館の充実を図るとともに、この文章を挿入していくということ。先ほど課長さんがおっしゃったように、これをごらんになりながら。

(石原生涯学習課長)

パブコメでは28ページだったのですが、現時点で29ページになってございます。

(原嶋議長)

ページ数はちょっと違っているということですね。いろいろ表作成等で変わってきているのではないかと思います。

よろしいですか。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

次に進めます。

方向性の最後に市内の大学、専門学校、研究機関などとの協力により、より高い教養と識見を見につけるための講座の開設など、その方策も検討しますを追記する。アンダーラインがそうですか。市内の大学、専門学校、研究機関などとの協力により、より高い教養と識見を見につけるための講座の開設など、その方策を検討します。ほとんどコメントいただいた方の文章をそのまま挿入しているということだと思います。

では、最後のページ、裏のほうになります。10番、学びの拠点としての図書館の充実を各重点プロジェクトの達成をする上でその拠点となるべき図書館の充実が求められているため。この方の御意見については、貴重な御意見とさせていただきますと。この方は幾つかコメントをされているようです。何か所か採用されている部分があるのではないかと思います。10番はよろしいですか。

11番に行きます。企業、実は前期の委員会でも企業の発想があったのですが、そのとおりだと私自身も思っております。多分、いろいろなことで企業が入ってきて、スポーツとか学校なども。いただいた御意見を参考にして、重点プロジェクト11に企業についての記載を追加します。今後の方向性に下線部の表現を追加します。こうした状況の改善を目指し、市民団体をコーディネートすることができるような人材の育成を支援します。今後は企業と協働、連携した施策の推進についても検討します。最後のところはどうですか。それでは、どんどん進めて申しわけありませんでしたけれども、検討結果についての意見に対する検討結果のコメントを全て我々のほうでも同意する形で文章をつけ加えるなりしていただければと思っています。よろしいですか。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

御検討ありがとうございました。

それでは、先に進めさせていただきます。

イ 最終確認について

(原嶋議長)

最終確認について、お願いいたします。

(事務局)

御承認いただいたパブリックコメントの検討結果を反映させたものを今回、お配り

した第3次計画（案）と小さくなって見にくいところがあるかと思うのですけれども、こちらの主に今回、パブリックコメントで指摘があったところが重点プロジェクトの部分が全てでしたので、基本的にはその部分の文言をパブリックコメントの回答とあわせて訂正させていただいているのですけれども、まずこれ以外に重点プロジェクトの主な事業・成果目標ということで、事業名とか現状が一番最後に表形式になっている重点プロジェクトの22ページ以降のところでは、

22ページ以降を開いていただいて、現状は何事業やっていて、目標は何事業やっているというところが全体的に抜けているところがありましたので、今、入れているのですけれども、まだちょっと一部仮置きの記事、事業数のところがありまして、これから少し数字が動くところがあるのですけれども、現状のパブリックコメントを反映させた内容と、今の成果目標というものを入れさせていただいております。一部、主な事業・成果目標のところをもう少し検討を加えたもので最終的に確定したいと思っております。

（原嶋議長）

よろしいですか。

まだ所轄のところでは上がっていないものも仮として文章を入れているということで、最終確認というものはもうないのですね。なので、いろいろ急ぎながら皆さんと進めてきたところなので、それはどのように。

（事務局）

今日が最後の会議ですので、全体の中で、新しい委員さんになられて少し時間もたったところもありますので、大きな変更というのはできないのですけれども、見ていただいて、御意見等があればいただけたら、大きいことはちょっとできないところはあるのですが。

（原嶋議長）

どうぞ。

（佐野委員）

要するに数字的なものが動くという程度ですね。それを了承すればいいということですね。

（西田生涯学習部長）

できれば数字のことについては私どもで責任を持って調べる話でございますので、その辺のところは一任していただいて、そのほかで何か気がついたところがあれば御指摘いただければと思います。

ただ、先ほども申しましたように、今から章立てを変えるとか、そういったことは今までの積み重ねの中で、この期に及んでそういうような御意見をいただいてもちょっと無理だなと思いますので、てにをはですとか、文章構成などで気がついたところ

を中心というようなことになりうかと思われま。

(原嶋議長)

それについてはお任せしてよろしいですね。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

あとは部分修正ということだそうです。

どうぞ。

(事務局)

今回、第2次の計画が、お手元にあるかもしれないですけれども、緑色をベースにつくっているものなのですけれども、第1次がこういった色をベースにつくっているもので、第3次もう1色加えたいということで、第1次、第2次の並びの中で、ピンク色系が青系というものを第1次、第2次と差をつける形で話をしておりまして、これは本当に感覚的なもので構わないのですけれども、もしどちらの色がいいとかというのを言っただけだと、それで進めたいと思っているのですけれども、いかがでしょうか。

(西田生涯学習部長)

表紙のイメージを中心に今、申し上げておりまして、基本的には2色刷りみたいな感じになる。多色刷りではなくて、白に何かの色が混ざる。最初の色はアンバーというか黄色っぽい色で、次が緑でした。次はどうしましょうということ。

(事務局)

中にもこういう感じで色が入るので、全体的にその色で決まっていく感じなのですけれども、こっちがいいとかがあれば、御意見をいただけたらありがたいのですが。

(城委員)

私はブルー系が。

(原嶋議長)

どなたか。

(佐野委員)

私もブルー系のほうが見やすいかなと思います。

(石田委員)

例えばこの表がピンクになるとちょっと見にくいかなという気がするのです。

(西田生涯学習部長)

濃淡があって、これがブルーなのですが。

(事務局)

ブルーのほうが御意見が多ければブルーで。

ありがとうございます。

(原嶋議長)

どうもありがとうございました。

どうぞ。

(古家委員)

冊子の件なのですけれども、今さら、単なる私見として聞いていただければと思うのですが、今までの第1次と第2次の計画は、結構立派なものです。中のほうも普通の紙ではなくて、ちょっと特厚みたいな非常にきれいなもので、多分、今回も同じ形にすると、冊子そのものが必要な方は有料になっていましたね。1,000円近く。

(石原生涯学習課長)

1,500円かそのぐらいです。

(古家委員)

これだけいろいろ財政的に厳しいと言われている中で、表紙はいいとしても、中身に非常に質のいい高級な紙を使ってというものよりも、少しでも安価なものにするとか、予算を少なくするというようなことというのは難しいのでしょうか。多分、既に27年度、もしくは28年度の予算として計上されていて、計画が立っているのだと思うのですけれども、可能ならば少しでも金額を抑えるとか、それが何かに反映できるようなものになるならばという素朴な疑問です。

(石原生涯学習課長)

市の中で幾らの予算で何冊つくるかというところで頒布価格というのは決まってくるのですけれども、他の計画の価格とか厚さなども考慮しながら、なるべく多くの方々に手にとっていただけるような価格設定になるように努力していきたいというふうに考えております。

(原嶋議長)

その辺の回答でよろしいですか。これは前期の委員の方からそういうようなお話が多々出ていたように思います。

(石原生涯学習課長)

前期のときに私どもの御提案で申し上げたのですけれども、市の計画類でこういう法で決められたような計画名称だけでなく、例えば小金井しあわせプランとかという基本構想とかに上げているようなニックネーム的なもの、愛称みたいなものの議論は余りされてこなかったのですけれども、大きな見出しになってしまうところなので、余り直前になってこういうものを入れたいと言われても、印刷の版をつくったりするときに困ってしまうところがあるのでしょうかけれども、何かそういう愛称みたいなものが必要ないかどうかということも御検討いただければと思います。

(原嶋議長)

推進計画というものをもう少し、これは出すけれども、もっとわかりやすく。どな

たかお持ちですか。

(石原生涯学習課長)

前期の中でも、提案だけして、特に具体的な議論がないので、皆様、特に適切なものが思い浮かばないということであればこれでいかざるを得ないと思います。

(原嶋議長)

アイデアあふれる方はどうぞ遠慮なく。

課長さんは何か腹案をお持ちですか。

(石原生涯学習課長)

ないです。

(西田生涯学習部長)

小金井市の全体の基本計画みたいなものだと割合キャッチフレーズをぽんと出せるのですけれども、こういう個別計画みたいなものに愛称をつけるというのはなかなか。正直、ほかの市を見ていると難しいようです。ですから、今、課長も言いましたけれども、絶対必要だというものではありませんので、それいいねというものがぽんと出てくればいいのですけれども、無理してまでつけるというような性格のものではないです。

(原嶋議長)

どうぞ。

(城委員)

キャッチフレーズが「学びでつなぐ 人・まち・小金井」とあるのですけれども、「学びでつなぐ 小金井」でいいのではないかなと。短いほうがぱっと入ってくるのではないかとこれを読んでいて思ったのですが。

(西田生涯学習部長)

申しわけありません。これは前期のときに決まってしまったものなのです。

(城委員)

わかりました。

(原嶋議長)

かなり時間を割いて検討してきました。これはキャッチフレーズですから、いろいろなところに反映していくのではないかとということです。

今の表現を少し柔らかくして、ぱっと目に映るような、あるいはここに残るようなというものがなければ、これで進めてしまってよろしいですか。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

では、課長さん、そういうことでお願いいたします。

小堀さん、何か。

(事務局)

今、白黒でA3を折ってお配りしているのですけれども、概要版(案)ということでお配りさせていただいているものがありまして、そちらのほうも、今は白黒でお配りしているのですけれども、本件の計画とあわせて色が入ります。第2次の概要版は最初のところに絵が入っていてという形のものなのですけれども、文字を大きくして、なるべく大きくして、見やすくしたいというところもありまして、絵等は省略させていただいて、表面から文章を始めさせていただいております。こちらも概要版ですので、本件の計画の主な部分を抜き取りさせていただいております。こちらも見ただいて何か御意見があればいただきたいと思います。

(原嶋議長)

どうですか。これについては、絵は入れないで、もう少し装丁を変えるということです。

前回のこれはイメージがこんななののですけれども、今回はこういう形ですか。

(事務局)

そうです。

(原嶋議長)

字を大きくしたということですね。

どうぞ。

(小山田委員)

表紙のほうに、最初に上の四角の中に「学びの継承 未来の創造～学びでつなぐ人・まち・小金井～」とありまして、これはしようがないのかもしれないのですが、2番の計画の基本理念にまた下にありまして、重なって強調はされるのですが、同じページに2回も同じフレーズがあって、違うことを入れたほうがいいのではないかと。2回あるので重複してしまうかなとちょっと思ったのですけれどもという意見です。

表紙に上と下と同じフレーズが2回入っているということになるので、行がもったいないというか。順番でいくと理念でそうになってしまうのかもしれないのですが、そう思いましたという意見です。

(原嶋議長)

どうぞ。

(石田委員)

今度の計画では、3ページ目なのですが、「学びを豊かにする環境づくり」の重点プロジェクトで1、2、3とあるのですが、それを2ページの「学びを豊かにする環境づくり」のほうに1、2、3と入れてしまっていて、4ページ目の細かい1、2、2-1、2-2ということはこの欄に入れれば、最終ページに前回でやったような具体的な講座名がここに入れられるのではないかと気がしたのですが、今度のものは文字ば

かりと言うといけないのですが、文字で伝えることなのですが、重点プロジェクトという名前は結構重きものを皆さんに与える名称だと思うのです。ですから、プロジェクト1の中にどんな講座があるか。前回では多彩な学習活動とか、市民のための講座とか、大学の知的資源の社会とか、いろいろな講座名が結構入っています。この計画の中にこういう講座が入るのかということがわかるのですけれども、今回のものはプロジェクト1の中にどんな講座が含まれるのかというものがありません。ですから、もし今から検討できるならば、学びを通じた人づくりに、4ページの世代に応じた学習機会の充実のところにはどんな講座がありますよというようなことが全部でなくてもちょっと紹介できると、世代に応じた学習だからこの講座が受講できるのかというようなものがあると講座の紹介になっていいのかなという気がするのですが、全面的にやり直さなければいけない。今からでは厳しいですか。でも、講座名の紹介が、ここに本の貸し出しとかあるのですけれども、こちらで講座を結構紹介しているのです。今回も講座の紹介をしているのですが。

(事務局)

一応、3ページの「5. 主な施策」のところから4ページにかけて、ちょっと形式が違うのですけれども、それぞれのところの該当する講座とか事業というものは載せさせていただいているのですけれども、これではちょっと。

(石田委員)

ちょっと見にくいと言ってはいけないですね。

(石原生涯学習課長)

うちのほうでたたき台の中では、ここにもっと、ぎょうせいさんのほうに講座をいっぱい入れていただいたものもつくっていただいたのです。ただ、私どもとして、極力文字を減らして、見ていただけるように内容をすきたいというのがあって現在のよな形につくったというところがありますので、これはいつまでとか、別の形態とかをつくり直したりとかという時間的な余裕はあるのか。

(石田委員)

もうちょっと印刷上で講座名が見やすいような。

(石原生涯学習課長)

ここの表記の仕方の工夫で講座名を浮き出すようにと。そこはうちも、これがベストだと思っていなくて、もうちょっと整理して、見出しの部分だ、事業名、施策名というところは際立たせたいなというふうに思っておりますので、そこは工夫をさせていただきます。

(石田委員)

例えば1-1とやったら、ちょっと出だしを控えて市報とか、ホームページとかになると、これが講座かという区別がつくと思うのです。そんな感じででもと思いまし

た。

(原嶋議長)

工夫も必要になってくる。

今のは少しでも反映してくださるということによろしいですか。

先ほどの「学びの継承」はちょっとしつこい。

(事務局)

どちらかを外して。

(西田生涯学習部長)

上を外すように。

(事務局)

上を外して、スペースを変えて、もう少し「学びの継承」を。ここの概要版で、今、上に囲っているところをもう少し上に上げて、「学びの継承」が目に入るような形にかえさせていただきます。

(西田生涯学習部長)

確かに表ページの一番上に大きな字で2回繰り返し書いてあるとくどいと言えなくどいので、計画策定に当たって理念を考えて出てきたのが「学びの継承」云々かんぬんなので、上に出てくるよりは下に出てきて大きく書いてあったほうがわかりやすいのかもしれない。

(原嶋議長)

お願いします。

(長坂委員)

よくわからないのですが、細かいことは別として、まず最初のサブタイトルですか。「学びの継承」はわかるのだけれども、「未来の創造」は何なのだからここにいらっしゃる方がもしわかったら教えていただきたいです。よくわからないのです。これを読んでわかる方というのはどういう方かなと思ったのです。言葉で踊っているのではないかと思うのです。2番目は「学びを通じた人づくり」というのはどういうことなのか。これもよくわからないのです。細かいことはいいのですが、ぽんぽんと大きいところだけ、余りみっともなくていいし、説明がつくようにしていただくとなおいいのではないかと思うのです。というのが私の意見ですので、御検討ください。

(石原生涯学習課長)

「未来の創造」は、計画策定に当たっての2行目のところで、学びの循環というようなことで、次の世代とかも順々に教えていく人を継承していくことによって若い世代が人を教える世代へと上がっていくということによって小金井の未来を創造していくということを打ち出すために未来の創造という言葉が入ってきたかなというふうに私のほうでは理解しております。

あとは「学びを通した」は議長のほうで何かありますか。

(原嶋議長)

このまま通ってしまいましたね。特に背景としては何だろう。そういう議論は。

(佐野委員)

あとの1番、3番、4番というのはわかりやすいですね。わかりますけれども、2番はどう考えてもわかりづらいですね。

(石田委員)

「通した」ということの議論は特に前期でしていないのですけれども、学びをともに共有するとか、お互いに学び合うということで「通した」という言葉が出たような記憶があるのですが、違ったでしょうか。お互いに学び合うということ、誰かが教えるだけではなくて、学び合うということ、共有するような、そういう意味で「通した」と。

(長坂委員)

学びを通じてということですか。

(石田委員)

通じて、お互いに学び合うというような意見のもとにこの文言が出てきて。

(長坂委員)

学びを通じてというのだったらわかるような気もするけれども、学びを通したといったら、皆さんどう考えられるか、私にはわかりづらい。

(原嶋議長)

どうぞ。

(柴田副議長)

学びを通した人づくりとするっとスルーしてしまうような文言なのですが、通したとか通じたというちょっと曖昧な要素がある用語のような印象を受けるというのがあると思います。私は、前の議論には参加していないのですが、この文章を読んで印象的なのは、学びの活動による人づくりというような印象を受けましたけれども、いかがでしょうか。

(原嶋議長)

例えば「学びを通した人づくり」の後ろのほうに具体的な母親学級とかブックスタートあるいは家庭教育学級。そういったようなもので人づくりをしていくというようなことで解釈はしていますね。具体的な活動において。

(佐野委員)

要するに「1. 計画策定にあたって」というところに「小金井市では、学びを通じて」と書いてあるので、このことを言っているのではないかと私は理解しています。その辺のところの言葉のちょっとした文言を変えれば同じようなことになるのではな

いか。「通じて」と「計画策定にあたって」ではうたっているのです。

(原嶋議長)

どうぞ。

(古家委員)

今の佐野さんの御意見のように、これは学びを通じてということとほぼ同じ意味だと思うのです。ただ、これを「学びを通じて人づくり」とすると最後が名詞になっているので、おかしいですね。そういったことも考えて、語呂合わせだとかキャッチフレーズとしてこういう言葉がいいのではないかと。キャッチフレーズ的な部分として多分、前期のところでは話し合ったと思うのです。だから、いろいろなところで、先ほどの「未来の創造」などもそうなのですが、いろいろな継続した議論の中で1つたどり着いたものとしての言葉なので、それが絶対ベストであるかどうかというのはわからないのですが、いろいろなニュアンスの中でよりよい響きのものとか、イメージみたいなものとしてでき上がってきた言葉だと思うので、それに使い方が間違っているとか、これは表現としておかしいということならば変更する必要があるかもしれないのですが、そうでなければ、こういうキャッチフレーズ的な言葉というのは読んだ人によって随分イメージも違う部分があると思うので、それはもう許容範囲として、特に問題がなければ、こういうキャッチフレーズ類はそのまま継続でいいのではないかと私は思います。

(原嶋議長)

間違いではないわけです。

(古家委員)

間違いではないと思います。

(原嶋議長)

それをどう捉えるかどうかということかもしれません。今、言ったように、古家さんと同じ考え方です。「通じた」「活かした」はフレーズ的なものをできるだけインプットさせようというイメージは確かにこれを決めるときにはありました。

この件はどうですか。ほかの方、御意見をください。

どうぞ。

(原田委員)

曖昧なところがいいと思います。「学びを通じた人づくり」というと、学びというものががちがちに決まっていて、そこを通らないと人づくりができないのだみたいなかたいイメージを受けるのです。ところが、「学びを通じた人づくり」というと、ほわっとしていて、曖昧でわからないという方はいらっしゃると思うのですが、生涯学習というのはいろいろなアプローチ、いろいろなやり方、いろいろな好みがあって、ぼーっとしたものだと思うのですよ。そういう意味では、この表現のほうがむしろいい

いのかなという印象を持ちました。

以上です。

(原嶋議長)

ほかの方、どうですか。御意見をください。

御意見がないようですので、これで進めてよろしいですね。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

お願いします。

(古家委員)

別件でよろしいですか。

(原嶋議長)

どうぞ、お願いします。

では、課長さん、そういうことでお願いいたします。

(古家委員)

概要版の件なのですけれども、概要版の検討については今回が初めてなので、自分の率直な感想なのですが、先ほどもお話にありましたように、推進計画の案というのはそれなりの金額を出した方が自分の手元に持つものであって、多くの人は概要版を手にすることができると思うのです。その多くの人が手にした場合の概要版の目的が何なのかなというイメージがあるのです。私の想像として2種類の目的がある。どっちかなと思ったのが、一つは、推進計画を本当に推進計画の大まかな概要というイメージで伝えるものだというふうに思うのです。

もう一つは、こっちは自分の手元にないけれども、これだったら自分の手元にあるよ。これを自分の日常生活の中で小金井市民として自分が少しでも生涯学習に役立てたいと思って具体的に活用したというふうに思う参考資料みたいにするのだとしたら、どちらかというところ、いわゆる理念的な概要がいっぱいあったとしても、例えば私がこれを見て、すごく具体的なイメージはいまいちわかりにくいかなというイメージはあるのです。推進計画の概要版というイメージなのか、概要版をもらった人が少しでも具体的にこれを見てイメージが湧くようなものにするかどうかというものの目的の違いによって少し内容が変わってくるかなと思うのです。

私はどちらかというところ、私が一小金井市民だったら、この分厚いものを千幾らを出して買うということは多分やらないと思うのです。そうすると、この概要を見て、何かちょっと自分で参考にしたいなと思ったときに、2ページ目、3ページ目、4ページ目はダブった部分が結構たくさんあると思うのです。2ページ目のキャッチフレーズが1、2、3、4とあって、それが3ページ目に図みたいになっていて、それを細かくしたものとしてあるのですけれども、もしこれをもう少しダブりをなくして整理

できるのであれば、この概要版を手にした人が即何かにちょっとでも役立てるようなものがあるならばあったほうがいいかなという思いはしました。ただ、この計画をこういう概要版にまとめるというのはものすごく頭を使うすごく大変な作業なので、私の勝手な感想としてです。

(原嶋議長)

これに対してまた本当は話し合わなければいけないのかもしれませんが、次善の策としてつくっているわけですね。

(石田委員)

私、前回も言いましたが、今、古家先生のおっしゃるように千幾らで買うよりも、紙の質を落としてもこの数が、予算が通ってしまっていますので、例えば市報のように各家庭で1枚ずつでも配れるようならばいいなという希望です。そういう参考書的なものとしてこれを捉えていただくことによって、講座の紹介がより広くできるかなという気がしています。ということで、今後のお願いでございます。

(石原生涯学習課長)

今後のお願いの話を申し上げさせていただきますと、今度、これができたときに皆様方からいろいろな方にこういうものがあるのだということをPRしていただくことによって、入手したいという人が多くいらっちゃって、それをお金出して買う方、概要版が欲しいといらっしゃる方が多くいらちゃれば、それは5年間のうちに同じものを2年間で売り切ってしまったのだということになれば、それは増刷しましょうという予算もついてくる可能性もありますので、皆様方と一緒に広めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(原嶋議長)

今のはよろしいですか。古家さんがおっしゃったのは、この文字とこちらの文字がほとんど同じなので、もうちょっと工夫が欲しかったのかなと。御意見になってしまいますけれども。

(古家委員)

可能ならの話です。

(原嶋議長)

ただ、今のところそれを上回る提案が頭の中にあればいけれどもね。

(古家委員)

この作業はすごく大変だと思います。

(西田生涯学習部長)

率直に申し上げます。ちょっと今からでは時間が、その作業をするとなるともう一度今つくっている第3次小金井市生涯学習推進計画案をもう一度全部ばらばらにして、再構築をしてこっちをつくらなくてはいけない。別物をつくらなきゃいけない。

というのは、こちらの構成に合わせて概要版をつくっていますので、こちらの構成に合わせない概要版をつくれという話に近いです。それは正直言って同じようなものを2つつくるということになって、ちょっと怖いのは、書き方が違うものが2つできてしまう可能性があって見せ方が変わりますので、受け取り方も変わってきてしまうということがあるので、これはもうちょっといろいろな見せ方の工夫はさせなくてはいけないのですけれども、解釈を間違えて、こっちで見た解釈の印象とこっちで見た解釈の印象が変わってしまうおそれがある。これは避けなくてはいけないので、というのは、繰り返しになりますけれども、こちらを再構成しないと古家先生のおっしゃったことは多分実現できないだろうと思いますので、その辺が苦しいかなと思います。

(古家委員)

わかりました。

(原嶋議長)

よろしいですね。

そのほか何かここでお伝えすることはありますか。この後の段取りはもうここでお任せして、印刷・発行という方向に事務局のほうで進めていくということによろしいですか。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

どうぞ。

(佐野委員)

このところはどうなるのですか。2つ出ていて。

(西田生涯学習部長)

1つにしてしまう。

(原嶋議長)

下のも生かすということですか。

(佐野委員)

うまくスペースを埋めていただけるとのことですね。わかりました。

(原嶋議長)

本当にベストのものはなかなか難しいなとつくっていて感じるところであります。

(3)一般社団法人全国社会教育委員連合(「社教連」)の組織存続のための緊急提案について

(原嶋議長)

それでは、次の議題に移っていきます。

一般社団法人全国社会教育委員連合の存続、これはどなたですか。お願いします。

(事務局)

昨日都市社連協の理事会があり、原嶋議長とともに出席しました。12月の交流大会に出席された委員さんは御存じかと思いますが、社教連という社会教育委員の全国組織の存続ために緊急提案が出され、こちらのホチキスどめの資料を見ていただきたいのですが、各市のこの提案の賛否や意見を都市社連協から求められている状況です。

提案の内容としては、ホチキスどめの一番最後のページの「組織存続のための緊急提案」のポイントを見ていただくとわかりやすいと思いますが、1口2,000円の寄附、任意のものになりますが、これの賛否やほかに意見がないかというのを今の会議で意見があれば出していただきたいと思っております。

社教連なのですが、委員さんにお配りした社教情報などを作成している組織でもあり、この社教情報をめくっていただきますと、社教連のあり方についての報告書など詳しい資料も載っていますので、昨日配付されたばかりなので事前配付ができなくて申しわけないのですが、この1口2,000円の寄附に対してどうのお考えが委員さんの中であるのか検討していただきたいなと思っております。

以上です。

(原嶋議長)

これは今日検討するというのは無理だと思います。こういう大きなこと、きのう私も発言させていただいて、非常に情報として遅いあるいは情報が少ない状況の中でいきなりこう出されたわけです。この前、行かれた方、どこかの大学の助教授さんがそういうことをあり方検討委員会みたいいきなりしゃべって、私たちは本当に上部の云々は全くわからない状態だった。何を言っているのかなということで、ようやくこのように御提案が具体的に皆さんのお手元に入ってきた中で、こんなふうに私は考えているのですけれども、今日ぜひ資料としてお持ちいただきたいし、読んでいただきたい。社教情報を渡されたと思うのですけれども、つながる社会教育、これは全社教の人が悲痛な声で存続したいということで、書いてあると思うのです。存続させたい。要は、この提案どおり皆さんから金をもらいたいだけでなく、翻って今まで自立するために内部で本当に自立しようとして頑張ってきたのか、いろいろ批判が出てくるのだと思います。寄附金をとる前にどのように運営をやってきたのか、組織のことなどいろいろ考えられると思いますので、申しわけないですけれども、これとこれを読んでいただきたいなど。

もう一つ言うと、3月に総会があります。そのときに全国組織の中で、全部といったら沖縄から北海道まで皆さんどのように考えていらっしゃるのかということがそこで出てくると思うのです。その出てきたものを4月に新たな年度の総会がありますので、そこで新たな具体的な提案、討議事項が出てくると思いますので、それら参考にして小金井市はどうしていくのかというのを考えても遅くはないと思います。

簡単に言えば、都市社連の会長がこれは1、2年かかるのではないか。その辺のスタンスを持っていらっしゃるようです。と申しますのは、2枚目のところの提案内容とありますね。提案理由があって、当面のプロセスがあるのです。

各都道府県社教連には本件についての検討を進めていただき、28年3月開催予定の総会において当「提案」を議案として了承を受ける。これは昨日の話だとかなり乱暴な話であるということが出ました。先ほどこの都市社連の我々の会長さんはもう1、2年くゆらせて、彼が言っているのはトップダウン過ぎるということです。もう少し我々各自治体の社会教育委員の会議の意見を尊重して吸い上げて、それは当然1、2年かかるのではないかということをおっしゃっていました。

総会において活動方針と、皆さんが了承したら次にどうしていくのかまでどんどん進めてしまうような表現だけれども、これもむちゃだということをおっしゃっていましたので、もう一度言いますと、3月の総会でこのことが出る。4月に全体の議題として出てくるかもしれません。それらを参考にしながら、私ども小金井の社会教育委員の考え方を進めていってもいいのではないかと思います。そんな印象を持ちましたので、多分、今日急に配られても、そもそも社教連って何なのか。関東甲信越静岡、その次に都市社連、第5ブロックと入ってきた方はなかなか整理しづらい。私でもわかっていないところもあります。なので、その辺のところを読みながらみ砕きながらでないに進められない。

私も皆さんに何か聞かれても正直良くわかりません。そういう段階です。同じレベルです。申しわけないけれども、社教連などというのは頭になかったものですから、一生懸命読んで、進めていただければと思っています。

長らくいる社会教育の方々は何となくわかってきたのでしょうかね。小金井の難しさは任期が2年しかないですね。考えると、私などもこの結果が出るのはもうやめているところでありまして、頑張って4年ですから、なかなかこういうことは引き継ぎ事項として伝わってきていないという難しさがあるのだと思います。地区によってはかなり長くやっっている人もおります。そういった意味では小金井の事情の難しさもあるのかなということ。

今日何か決めなくてははいけないですか。

(事務局)

一応、都市社連協のほうから意見をまとめるようなシート、回答票はいただいているのですが、小金井市の社会教育委員で資料とか情報が足りないということで、意見をまとめる段階でもないし、もうちょっと様子を見て検討したいということであれば、そのように都市社連協のほうに回答させていただきます。

(原嶋議長)

何かどうぞ。

全国、関東甲信越静岡、こういうことも私自身も余りきちんと学習していないものですから、社教連そのものの組織のあり方も不勉強である。そういうのをまず勉強していきましようか。そういうことで、今、事務局でうまくまとめた方向で御返答するというので。

(事務局)

補足でつけ加えさせていただきますと、3月に先ほど議長のほうから御説明があったかと思いますが、3月に都市社連協のほうで、各市からいただいた意見をまとめて全国組織の総会があるので、意見をまずお伝えすることが決まっております。そこで話し合った内容を含めて、次第の一番下に書いておきましたが、4月16日に都市社連協の定期総会が予定されておりますので、その議案ではなく討議事項として3月に行った総会の結果を報告させていただいて、都市社連協でどうしていくかということをご皆さんにお伝える方向で昨日の理事会はそのようにまとめました。

なので、3月の総会を終えた上で各市に都市社連協のほうから報告がありますので、その情報が届き次第、また事務局のほうから各委員さんに情報提供していきたいなと思っております。

以上です。

(原嶋議長)

どうぞ。

(古家委員)

私の率直な感想なのですけれども、この件は相当もめるといふか、全国としても最終的に意見がまとまらないで終わるのだろうなと思うのです。このように全国組織とか、関東とか東京とか市区町村の組織が運営しているケースは社会教育連合は例えば古家は社会教育委員になったから何か会費を納めているかというのと、ないではないですか。例えば校長会は全連小とか関東甲信越の校長会とか東京の校長会は必ず校長になった人が会費を払っていて、それがこういう下部組織から上部団体の一つ一つそういうお金を出しているのです。例えばPTAなどでも全国のPTA連合会とか東京のPTA連合会なども単Pからの言葉は悪いですが、上納金みたいなものがきちんと集まっていく仕組みがあって初めて全連とか関東とか東京が成り立っているんであって、この社教の場合にはそれがなくて最初から内閣府の予算からスタートしているのであれば、それは公的な予算の中で何がしかのものができるか、もしくはお金がないのだったら、お金がないなりの最小限の活動にするかということのどちらかを考えるしかないんで、これは相当もめるといふか、しばらく様子を見たほうかという気はします。

(原嶋議長)

緊急提案で是か非かとかなかなか討議しづらいです。先ほど言いましたように、本

当に組織そのものを私も勉強ぶそくですし、上から下の流れもまだまだわかっていないところがあります。

では、これは少し日を置いて、また皆さんとお話し合いする時間を持ちたいと思っておりますので、よろしいですか。

(「はい」と声あり)

(4) その他

(原嶋議長)

その他に入ります。その他協議事項はありますか。

事務局、先ほどの子どもの何とかというのは協議に入れるわけですか。

(事務局)

子ども読書はあくまでも協議していただくものではなくて、報告させていただくものなので、このその他ではないです。

(原嶋議長)

報告事項その他もしありましたら後ほどお願いしたいと思います。

2 報告事項

(1) 第3次小金井市子ども読書活動推進計画(案)に対する意見及び検討結果について

(原嶋議長)

では、報告事項よろしく申し上げます。第3次小金井市子どもというところです。

(上石図書館長)

第3次小金井市子ども読書活動推進計画(案)に対する意見及び検討結果について御報告させていただきます。

前回の8回の社会教育委員の会議で口頭でパブリックコメントをした結果、3人の方から4点の御意見をいただいたということまでは報告させていただいておりました。その検討結果がこのような表におさまっていますので、ご覧ください。

こちらのほう、1月25日の図書館協議会でもお示しし御了承得て、その後教育委員会にも報告し御了承を得ておまして、2月10日から既にホームページ等で公表させていただいているものです。各関係施設にも配付しておりますので、簡単ですが報告をさせていただきます。

あと、閉会中の議会がなかったもので、第1回定例会が来週22日から始まりますが、その中で厚生文教委員会のほうで行政報告をさせていただくことになっておりますので、あわせて御報告させていただきます。

以上です。

(原嶋議長)

報告ですから、御質問だけですね。お願いいたします。

(2) その他

(原嶋議長)

では、その他でこの子どもプランも報告なのですか。

(石原生涯学習課長)

これはもしよろしければ御参照ください。

(原嶋議長)

あと、私のほうに28年度放課後子どもプラン事業にかかわる運営委員の推薦についてということで、教育長から来ていますので確認ですけれども、3月31日が推薦期限ということですので、小山田さんに御依頼申し上げていますので、推薦させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

そのほか、順次行きます。会議予定の中で先ほどお話がありました4月16日、こもればホールがあります。3月はなくて4月になっていくということになると思います。

私どもで課題になってきています三者懇談会があります。今回は年に2回やるわけですね。

(原嶋議長)

社会教育委員で三者懇談会をどちらかといったら主催者側になっていく、中心になっていくというわけですね。私どもの仲間の中で、図書館、公民館、社会教育委員、共通的なベースの中で何かできれば一番いいのですけれども、私どもが主催者側となると、こんなふうなことがあればいいのかなというアイデアをいただいて進めたいなと思います。どのようなことをやったらいいのか。皆さん、ありますか。

(北村委員)

例年はどういうことをやっているのですか。

(原嶋議長)

小山田さんがこの前は講義をやってくくださったのがスマートフォンとか何かを中心とした。

(小山田委員)

そうですね。情報の。

(原嶋議長)

子どもたちの情報の扱い方、そういうのがありました。

(石田委員)

図書館の田中さんがここで気功をやりました。

(原嶋議長)

図書館と気功ということで、大変有意義な会でしたね。バリエーションは非常に広くとれるのですけれども、予算は全くないのですね。

(西田生涯学習部長)

はい。

(原嶋議長)

中のスタッフで何とか。

(西田生涯学習部長)

懇談会ということで、それぞれの顔を見て図書館協議会はこういう人たちがやっているのだ、仲よくやりましょうねとか、そういうイメージですので、そういう意味では幅広く何でもやっている。みんなが仲よく和気あいあいとできればいいのかなというのが今までの流れでした。

1つのテーマを決めてかんかんがくがくとやるというような雰囲気ではなかったというのがあります。

(原嶋議長)

これも宿題。宿題ばかりですね。

(西田生涯学習部長)

今回、10月にまた予定されている科学の祭典、またみんなで盛り上げていきましょうよとか、そういう話もちらちら出ていたりというのはあったかもしれません。

(原嶋議長)

それてしまいますが、科学の祭典の事務局長。

(石田委員)

局長ではない。事務局員です。

(原嶋議長)

これは決まっていたね。

(石田委員)

10月9日でございます。

(原嶋議長)

そこに段取りよく進めなくてはいけないのかと思っています。慌てないように、頭の中に入れておきましょう。

どうぞ。

(佐野委員)

1つは、科学の祭典について話し合ってもいいのかなと。いつも同じ部屋に三者いるのですが、それぞれがばらばらという感じで、それぞれがやっている。そこに共通

の何かというのもないような気がして、私も3回ぐらい参加しているのですけれども、同じ部屋なのですけれどもばらばらという感じがあるので、まとまって何か、それぞれやるのですけれども、もうちょっと共通認識というか、みんなでこれをやろうみたいな感じのことがあってもいいのかなと、科学の祭典という言葉で思い浮かびました。

(石田委員)

図書館協議会のほうでどうして祭典に出展しなければいけないのかという意見が出ていたような記憶があります。たしかほかの市では三者と一緒に動くとか、協働するということが全然ないのです。小金井市だけは三者でこういうことをしているということをお話したと思うのですが、6年ぐらい前の社会教育委員の人たちがきつと呼びかけて、お互いの連絡をとってこうやろうよという申し合わせでやるようになったと思うのですが、そういうのはだんだん期がかわるごとに薄れてきていますので、なぜ出なくてはいけないのだという意見も出ていました。

(西田生涯学習部長)

図書館協議会の一つ事情がありまして、社会教育委員の会議や公運審と違って回数が少ないのです。そういうこともあって、なかなか決めて何かをみんなでやろうという時間的ないとながほかの会に比べて少ないこともあって、それも一つの原因にはなっているかなという気はします。いろいろ図書館もこれからいろいろ諮問とかしていく予定がございますので、それをしながらこちらもやれと言われるのはつらいというのが本音ベースではあるのかと思います。

(佐野委員)

何回か科学の祭典に出させていただいて、実際に見に行ったり、青少年健全育成の私のほうの地区であそこを見学したり、お母さん方はすごく喜んでいました。要するに、時間が足りないと言われて、1回集まって解散して、その後また行かれて見ていたりして、ですから科学の祭典はすばらしいものだとは思いますし、三者で出展して、図書館さんが出展する内容もなかなかすばらしいものがあるのです。ですから、同じことで三者がやるということではなくて、そこに三者が参加することにすごく意義があって、その上で公民館さんは公民館さんの特色を生かして何かを出展される。図書館さんは図書館さんで自分のところの特色を生かして出展される。そういう形でやられたほうが、出展するほうもいろいろな経験を持った上で出展されていると思うので、そのほうがやりやすいのではないかと私は思います。ですから、1つ的を射て、1つのことを三者でやるのはなかなかきつい感があるのではないかと私は思います。

私たちも見ていくと、図書館さんはこういうこと、公民館さんはこういうことと逆に言うと楽しいというか、そういう面で独自で特色を生かして、三者でそこに参加するところに持っていったほうがいいのではないかと私は思います。

(原嶋議長)

どうぞ。

(石田委員)

今、おっしゃったようなことができるといいのですが、部長さんもおっしゃったように図書館は年3回なのです。そうすると、皆さんの出席、科学の祭典に午前午後と分かれて係として出られるかというのも全部メールでの問い合わせなのです。ですから、昨年の実績でいきますと、とにかくそこに出られる人を募るのも会合が持てない。私たちは年10回ありますので、大体顔見知りになるのです。そうすると、科学の祭典のキットをつくるのもノーギャラでもこれが終わって午後にしましよとか、自然に何人か集まってきて、手作業でいろいろな工作物、公民館も私たちがこれをしますというものを持っていてできるのです。ですから、図書館は結局時間がないためにその協議ができない。集まる時間がとれないというのが現状なのです。ですから、昨年も一昨年やったものがまだ残っているから、それを展示しようとかという計画で、新しいものをつくり出すということが時間的にできないのです。だから、社会教育の中に図書館も乗せてもらおうと、それはわかりませんが、そういう計画とか協議をしていないので、人材とかテーマ的には楽な面があるのです。こういう三者懇談会みたいなところでテーマとして話し合っただけということも一つ、図書館は集まるのが大変なのですね。

(上石図書館長)

今、石田さんがおっしゃったように、科学の祭典で何をやるか、まずそのことを話す機会もなかなか持てずに、結局有志でやることにしましよかという感じだったのですけれども、有志ではおかしいでしょうと、図書館協議会で出るのでしょうかという事で、その辺の議論もあったように聞いていますので、なかなか難しいのかと思います。

(原嶋議長)

科学の祭典のほうに議論が行ってしまっているのですけれども、私なりにまとめて言うと、佐野委員と同じ考え方なのです。今みたいに図書館の委員の方々の年に何回かしかかない中で、統一テーマを決めて縛っていくとそれなりに皆さんが大変な状況になっていくのかなと。それぞれの人脈なりそれぞれの特徴を生かしてブースをつくっていく。私がテーマに挙げたのは三者懇なのですけれども、科学の祭典についてそれほど時間をかける必要があるのかと考えることはあります。

例えば石田事務員さんが発信するという場は大変大事だと思うのですけれども、それを2時間かけるとなると、難しいなという感じがいたしますので、次回に柴田委員と相談させていただいて、御提案できるかどうかわからないけれども、1カ月あきの時間がありますので、柴田委員の御指導のほど、よろしいですか。こういうことがあればということで原嶋か事務局のほうに御連絡いただければと思っています。よろし

くお願いしたいと思います。

では、その他のところの協議事項には入ってしまうかもしれませんが、いつも懸案になっているのは、この前言ったようやくこういった見通しができた後に、では我々に何ができるのかといつも考えるところでもあります。これについては、今日も時間がありませんから、また次の会でお願ひしたいと思います。年8回、本年度はあと4回ぐらいなのかな。その中で何が私たちができるのか。私たちがいろいろな研修会に行ったところで、動く社会教育委員みたいなイメージはすごくあるのです。小金井市の諮問を私たちは受けてということはありませんけれども、かなりウエートの的には学習の推進計画はそうだったと思いますし、その中にはもちろん提言的なものも入っているわけです。2年間で提言が変わればそれで作成すればよいことなのですからけれども、腹案として何かこんなことをしたいな、研修を通してということをやっていたいなということがあります。定例的に何か形だけつくってやっていくのがいいのかどうか。それは課長さんや部長さん等の御指導を仰ぎながら進めていきたい。ただ諮問を受けてやれば、それでいいのかという感じがするのです。多少なりと報酬をいただいているので、何か小金井市の課題の中で少しでも皆さんでできることはないのかと思います。

今日は時間がないのでこれだけにしておきますけれども、次に必ず機会を得たいと思っています。

あと、教育委員会との話も私の頭にありまして、ただ、これから議会が入ってきますので、余裕のあるときに私どもとお話をさせていただければと思っています。後で佐野委員のほうから経験でアドバイスがあれば伺いたい。学校から地域へ、地域から学校へというのがかなりウエートの的に占めてきていますし、社教法なり学校教育法も改正になる。そういったことを重点的にという情報を得ている中で我々社教委員としてどうしていくのか。つまり、地域と学校を結ぶ我々の立場、そういう役割の中でどうしていくのか。そういう視点でもって委員会とお話ができたらなど。

余り狭めてテーマをつくってくると、なかなか広がりを持たないので、地域と学校との関連性みたいなものをお話ができればなどと思っているのです。

部長さん、何かアドバイスはありますか。

(西田生涯学習部長)

多分、議会が入ってしまったら何かしているのです、事務局も同席ということになるかと思いますが、実質的にやれるのは4月以降という形になると思います。時間を区切ってそういうことをやった例はありますので、今の教育委員の皆さんも生涯学習に関して御興味をお持ちで、いろいろ質問をされたり、実際に行事に出てきてくれたりもしてくれていますので、そういう意味ではこういう申し出に関しては、今までも実績があるし、やってくれると思います。

(原嶋議長)

佐野委員、御経験上そういうことでの取り組みも委員の時代にありましたか。

(佐野委員)

ありました。

(原嶋議長)

ちょっとお聞かせを。

(佐野委員)

何をですか。

(原嶋議長)

テーマとかはありましたか。

(佐野委員)

教育委員の方と社会教育委員が顔を合わせていろいろなお話をするという事は、非常に私は重要なことだと思いますし、やったほうがいいのではないかと考えています。最近の報道で、先生方が一番負担に感じているのは保護者と地域、それとのかかわりに80%の先生が負担に感じているというデータがこの間載っていました。これはちょっと考えないといけないのではないかと。

ですから、今、議長がおっしゃったように学校と地域を結ぶ。学校が地域とのかかわりで望んでいることは何なのかということをお私たちがつかむ必要があるのではないかと。

そういう点で、教育委員の方がどの程度まで話をさせていただけるかわかりませんが、地域というのは何かそういう負担がかかっている部署なのです。そういう点で少しでも負担が和らげるようなことを社会教育委員の会議として考えていくことがすごく大事なのではないかと新聞に出ていた記事を読んで私は思いましたので、こういうことも参考にさせていただければと思います。

(原嶋議長)

ありがとうございます。

(石原生涯学習課長)

教育委員会制度が改正されて、市長と教育委員会の会議の場は総合教育会議というものが設置されていますので、そういう場で市長に向かって社会教育のこととかを話るときにも、社会教育委員さんと会話をした後であるということは非常に総合教育会議の幅も広がってくるかなと思います。

(西田生涯学習部長)

今までやったのは特にテーマとかを決めずに、結構ざっくりばらんにやっていたという記憶があります。テーマを決めずに時間を区切ってという感じだったと思います。

(原嶋議長)

今のアドバイスを受けて、できるだけざっくばらんなお話をする機会を持ってよろしいですか。

(「はい」と声あり)

(原嶋議長)

これについては課長さんとの連携で少し進めさせていただければと思います。教育委員会もいろいろ事情があると思いますので。

(石原生涯学習課長)

議長、それと来年度の小委員会、今年度は計画をつくるために10人全員小委員会という形で運営してきたのですけれども、来年度からはまた本会議の中から5人選抜していただいて、本会議の前週などに本会議でどういった形のものを議論していこうかということも議論していただく小委員会のメンバーを5人選抜していただきたいと思いますので、そちらのほうもよろしく願いいたします。

(原嶋議長)

今日ですか。

(石原生涯学習課長)

来年度の話なので、小委員会の日程を決めたりする3月中旬ぐらいまでに決められれば。昨年度の例だと正副とあと3人という感じなのですけれども、団体推薦と学識の方で正副務めていただいているので、公募委員の方には必ず1名入っていただくかと考えてございます。

(原嶋議長)

少し時間があるようですので、ぱっと決められるのだったら進行させて、3月はもうないから、小委員会の性格そのものは御質問ありますか。この定例会の段取りとかこちらに来る研究調査をひっくるめてそういうものを兼ねてやるということでございます。

5人ですか。

(石原生涯学習課長)

はい。正副は入っていただいて残り3人。

(小山田委員)

私、去年入っていましたので、違う方に入っていただけるとうれしいです。

(原嶋議長)

あと3人ですね。基本的に昼間やっていましたね。

(石原生涯学習課長)

P連の方は去年は入ってもらっているのです。

(北村委員)

わかりました。昼間ですね。入ります。

(石原生涯学習課長)

あと2人ですね。

公募の方にはぜひ入っていただいたほうが。

(佐野委員)

では、原田委員、お願いいたします。

(原嶋議長)

御指名のようでございます。

(原田委員)

週の前半であるとありがたいのですが。

(原嶋議長)

できるだけ浴うように頑張ります。

(原田委員)

承知しました。

(原嶋議長)

よろしくお願いします。

あと1人。

(石田委員)

そうすると、小委員会の経験者は議長1人になりますね。

(原嶋議長)

では、小山田委員。

(小山田委員)

わかりました。

(原嶋議長)

では、小委員会5名ということで、原嶋、柴田委員、原田委員、北村委員、小山田委員の5名でやっていきます。

今日も皆さんテーマが多くて難しかったと思います。また、宿題ばかり出して申しわけありません。

11時をちょっと過ぎました。今日の会議については終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。